

輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2004年に輸入された植物から発見された主な重要病害虫は下表のとおりである。これらの病害虫の多くは携帯品で持ち込まれた輸入禁止生果実から発見されている。また、輸入禁止対象及び特定重要病害虫以外でもアメリカ産セロリー生茎葉等11カ国22種類からアシグロハ

モグリバエ(227件)、タイ産トウガラシ生果実等9カ国7種類からナスミバエ(旧名マレーシアミバエ)(152件)、イタリア産テンサイ(ビート)種子等6カ国2種類からテンサイさび病(17件)等重要な病害虫も数多く発見されている。

輸入禁止対象病害虫

発見病害虫名	寄主植物(発見植物)別発見回数	輸出国別発見回数
<i>Cylas formicarius</i> アリモドキノウムシ(2件)	サツマイモ(2)	ベトナム(1)、中国(1)
<i>Leptinotarsa decemlineata</i> コロラドハムシ(1件)	(チモシーヘイ)(1)	アメリカ(1)
<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミバエ(4件)	キュウリ生果実(1)、トウガラシ生果実(1)、ニガウリ生果実(2)	パキスタン(1)、フィリピン(2)、タイ(1)
<i>Ceratitidis capitata</i> チチュウカイミバエ(4件)	コーヒーノキ生果実(1)、トウガラシ生果実(2)、レモン生果実(1)	ハワイ(1)、ガーナ(1)、チュニジア(1)、イタリア(1)
<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群(211件)	トウガラシ生果実(16)、パンジロウ生果実(14)、マンゴウ生果実(85)、モンピン生果実(7)、リュウガン生果実(7)、レイシ生果実(15)、レンプ生果実(29)、その他19種(38)	インドネシア(20)、タイ(40)、台湾(36)、フィリピン(60)、ベトナム(21)、その他12ヶ国(34)
計(222件)		

特定重要病害虫

発見病害虫名	寄主植物(発見植物)別発見回数	輸出国別発見回数
<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ(1件)	レタス生茎葉(1)	アメリカ(1)
計(1件)		

海外のニュース コドリンガ幼虫の集合フェロモン

コドリンガ(*Cydia pomonella*)は、世界中の温帯地域(日本及び朝鮮半島等を除く)に分布するチョウ目の著名な害虫で、我が国では特に侵入を警戒する害虫としており、発生地域からの寄主植物の輸入を禁止している。

成虫はリンゴ、モモ、クルミ等の葉や果実に産卵し、ふ化した幼虫が果実内部を食害する。5齢幼虫は、樹皮下や落葉中に繭を作り、その中で蛹化するが、本種の幼虫が繭を作り蛹化するための場所を探すとき、他の幼虫が放出するフェロモンにより誘引され集団で繭を作る。これは、多くの昆虫で知られているように成熟したメスの蛹が放出する性フェロモンにオスが誘引され、結果としてメスの羽化後すぐに交尾可能となるという繁殖戦略と同様の意義があると考えられる。この現象はDuthieらにより2003年に報告されていたが、雌雄どちらか一方が集合フェロモンを生産するのか、雌雄が同じフェロモンを生産するのかは確かめられていなかった。このため、Jumean, Z.らがコドリンガ幼虫が生産する集合フェロモンによる誘引効果等の

実験を行ったところ、この集合フェロモンの構成物質は(E)-2-オクテナール、(E)-2-ノネナール、sulcatone、3-カレン、オクタナール、ノナナール、デカナール、ゲラニルアセトンの8つの化学物質から成ること、これらの割合は雌雄で差がないこと、雌雄が同程度誘引されることが確かめられた。

なお、コドリンガ幼虫が発散する集合フェロモンは蛹に寄生するヒメバチ科の*Mastrus ridibundus*を誘引することが知られている。

さらなる研究が進み、防除等への応用が期待される。

(参考) Jumean, Z. et al. (2004) Male and female *Cydia pomonella* (Lepidoptera: Olethreutidae) larval produce and response to aggregation pheromon. The Canadian Entomologist. 136: 871-873.

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 奥 富 一 夫
編集責任者 佐々木 武
印刷所 内村印刷株式会社